

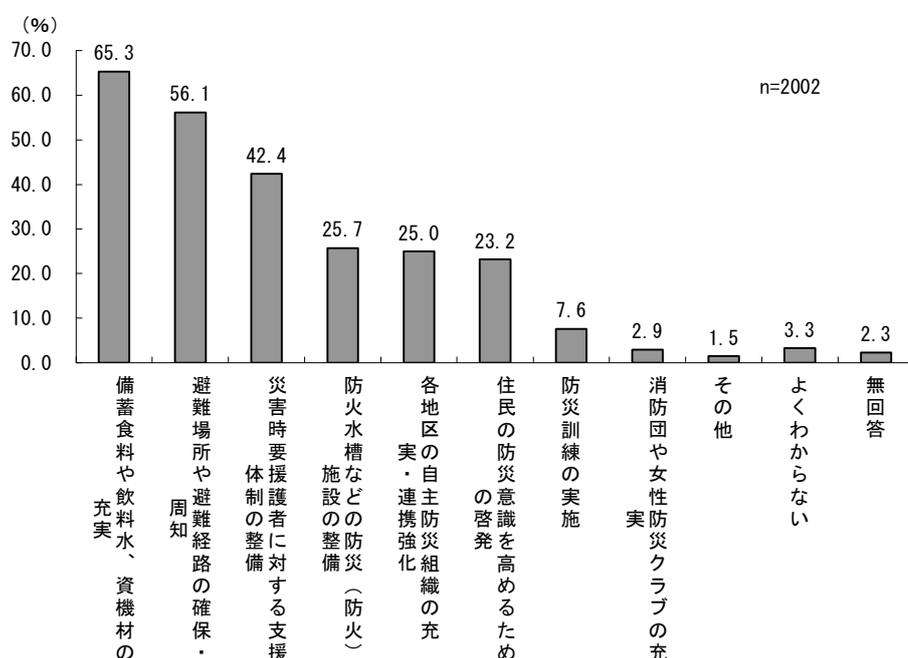
5 将来のまちづくりについてお伺いします

(1) 安全・安心について

5-1 防災に関して力を入れるべきこと

問10 地震や集中豪雨などへの防災に関して、今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 防災に関して力を入れるべきことについては、「備蓄食料や飲料水、資機材の充実」が65.3%と最も多く、次いで「避難場所や避難経路の確保・周知」(56.1%)、「災害時要援護者に対する支援体制の整備」(42.4%)の順となっている。



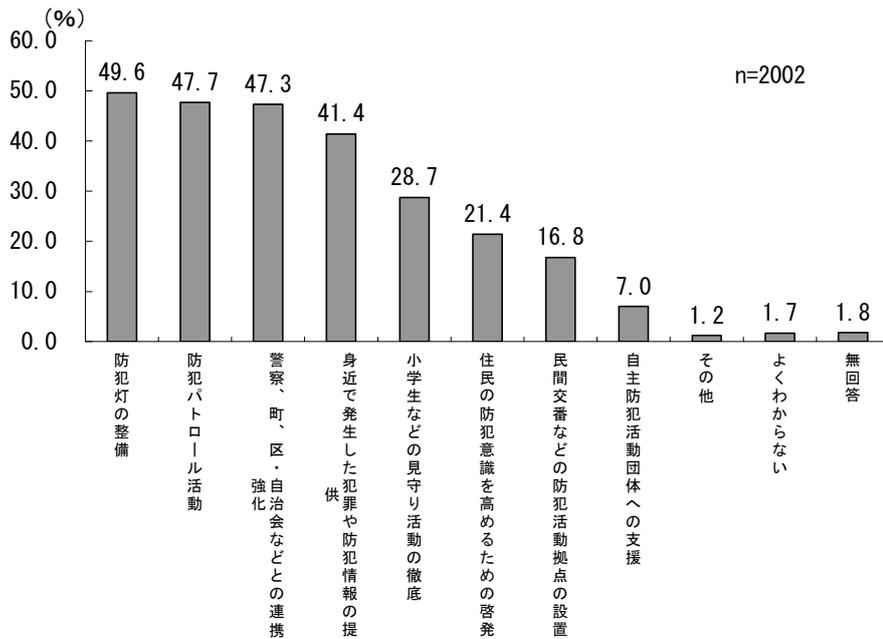
- ◆ 家族構成別については、各世帯で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。どの家族構成においても、「備蓄食料や飲料水、資機材の充実」が最も高くなっている。

	全体 (人) (n)	備蓄食料や飲料水、資機材の充実	避難場所や避難経路の確保・周知	災害時要援護者に対する支援体制の整備	(防火) 防火水槽などの防災施設	各地区の自主防災組織の充実・連携強化	住民の防災意識を高めるための啓発	防災訓練の実施	消防団や女性防災クラブの充実	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	65.3	56.1	42.4	25.7	25.0	23.2	7.6	2.9	1.5	3.3	2.3
ひとり暮らし	285	57.9	50.9	41.1	24.6	23.5	25.6	6.0	4.6	2.1	5.3	2.5
夫婦だけ	494	60.3	56.7	40.7	25.1	31.4	27.5	8.7	4.3	2.0	1.8	2.8
親と子(2世代)	945	70.8	58.1	44.4	27.0	22.4	20.7	7.2	1.5	1.3	3.3	1.9
親と子と祖父(3世代)	156	64.7	53.2	39.7	21.8	22.4	20.5	10.3	4.5	1.3	3.2	2.6
その他	79	60.8	53.2	35.4	26.6	26.6	20.3	8.9	3.8	1.3	5.1	3.8

5-2 防犯に関して力を入れるべきこと

問11 防犯に関して、今後どのようなことに力を入れる必要がありますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 防犯に関して力を入れるべきことについては、「防犯灯の整備」が49.6%と最も多く、次いで「防犯パトロール活動」(47.7%)、「警察、町、区・自治会などとの連携強化」(47.3%)、「身近で発生した犯罪や防犯情報の提供」(41.4%)の順となっている。



- ◆ 地区別については、各地区で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。7つの地区で「防犯灯の整備」が最も高く、次いで「警察、町、区・自治会などとの連携強化」(5地区)、「防犯パトロール活動」(4地区)の順になっている。また、「民間交番などの防犯活動拠点の設置」では、部田山の回答率が全体より約10ポイント高くなっている。

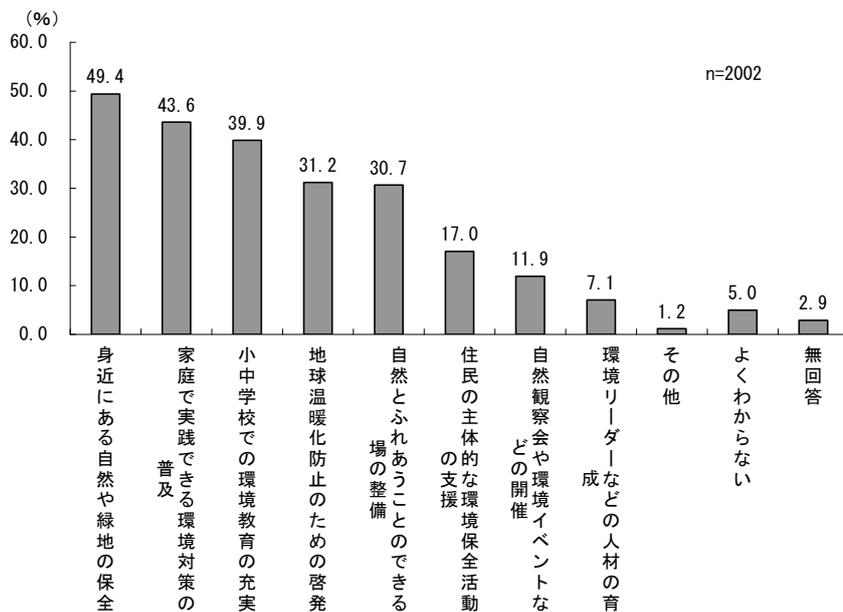
	全体 (人) (n)	防犯灯の整備	防犯パトロール活動	警察、町、区・自治会などとの連携強化	身近で発生した犯罪や防犯情報の提供	小学生などの見守り活動の徹底	住民の防犯意識を高めるための啓発	民間交番などの防犯活動拠点の設置	自主防犯活動団体への支援	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	49.6	47.7	47.3	41.4	28.7	21.4	16.8	7.0	1.2	1.7	1.8
諸輪	140	53.6	45.0	49.3	29.3	34.3	21.4	18.6	7.1	1.4	2.9	4.3
和合	138	45.7	52.2	46.4	35.5	35.5	25.4	18.1	5.1	-	1.4	0.7
傍示本	138	49.3	48.6	44.2	43.5	25.4	25.4	15.2	10.1	0.7	1.4	2.2
祐福寺	90	38.9	44.4	42.2	44.4	30.0	22.2	14.4	7.8	1.1	5.6	4.4
部田	68	54.4	45.6	36.8	39.7	33.8	14.7	8.8	8.8	-	2.9	2.9
白土	198	51.0	43.9	49.0	43.9	25.3	17.2	20.7	7.6	1.0	1.0	2.5
西白土	42	50.0	33.3	52.4	40.5	28.6	14.3	16.7	7.1	2.4	2.4	-
和合ヶ丘	152	47.4	52.0	53.3	42.8	25.0	24.3	11.8	5.9	-	2.0	2.0
諸輪住宅	24	25.0	37.5	45.8	45.8	33.3	20.8	12.5	12.5	-	-	12.5
白鳥	197	51.8	48.2	47.2	43.1	29.9	19.3	14.2	4.6	1.0	1.0	2.0
御岳	155	45.2	48.4	47.1	43.2	31.6	28.4	12.9	5.8	0.6	3.9	-
押草団地南	52	46.2	42.3	50.0	50.0	17.3	23.1	17.3	9.6	3.8	1.9	1.9
押草団地北	45	48.9	46.7	60.0	35.6	24.4	24.4	15.6	11.1	2.2	2.2	-
春木台	166	45.8	55.4	46.4	45.2	25.9	21.7	15.1	4.2	-	1.2	1.2
北山台	148	54.7	49.3	48.6	43.2	25.7	17.6	20.3	8.8	2.7	1.4	-
部田山	184	59.2	44.6	41.8	38.6	31.0	21.2	26.1	7.6	3.8	-	-

(2) 環境について

5-3 環境への意識を高める取り組みに関して力を入れるべきこと

問12 環境への意識を高める取り組みに関して、今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

◆ 環境への意識を高める取り組みに関して力を入れるべきことについては、「身近にある自然や緑地の保全」が49.4%と最も多く、次いで「家庭でできる環境対策の普及」(43.6%)、「小中学校での環境教育の充実」(39.9%)の順となっている。



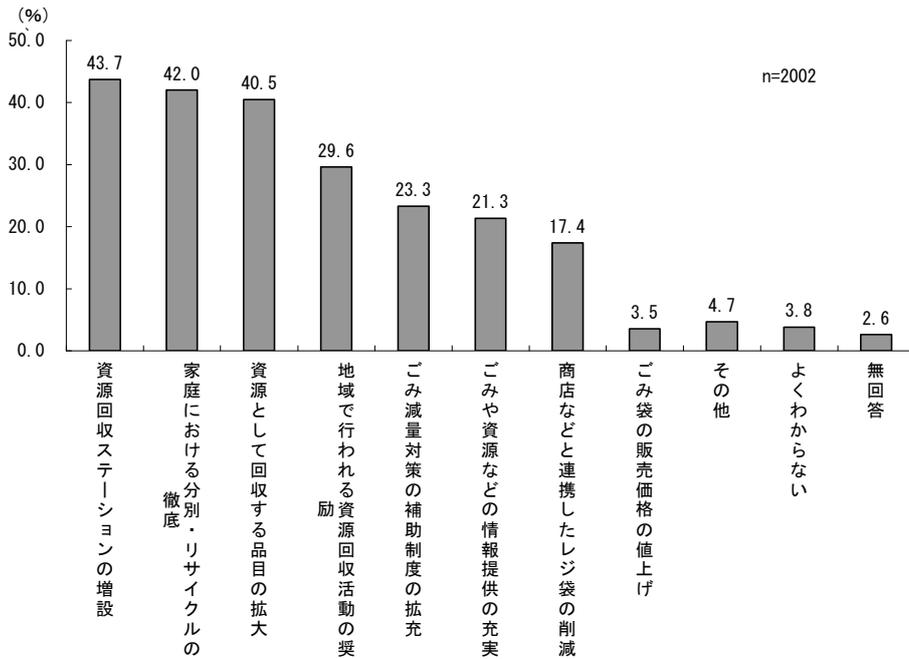
◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。10歳代・20歳代・50歳代～70歳以上では「身近にある自然や緑地の保全」、30歳代・40歳代では「小中学校での環境教育の充実」がそれぞれ最も高くなっている。

	全体 (人) (n)	身近にある自然や緑地の保全	家庭で実践できる環境対策の普及	小中学校での環境教育の充実	地球温暖化防止のための啓発	自然とふれあうことのできる場の整備	住民の主体的な環境保全活動の支援	自然観察会や環境イベントなどの開催	環境リーダーなどの人材の育成	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	49.4	43.6	39.9	31.2	30.7	17.0	11.9	7.1	1.2	5.0	2.9
10歳代	46	50.0	37.0	39.1	21.7	28.3	19.6	6.5	4.3	0.0	8.7	2.2
20歳代	284	48.9	44.0	42.6	30.3	35.6	12.7	15.1	6.0	0.4	3.2	1.1
30歳代	372	40.9	43.8	49.7	21.8	36.0	11.6	15.6	4.6	2.4	5.9	0.0
40歳代	303	42.9	45.5	46.2	33.3	23.8	13.9	10.6	5.6	1.0	5.9	2.6
50歳代	253	52.2	42.7	33.2	32.0	28.9	23.3	8.7	6.3	2.4	4.3	4.7
60歳代	411	55.0	46.0	36.7	38.4	29.4	19.7	9.5	10.2	0.2	4.1	3.6
70歳以上	273	57.1	41.0	28.9	35.2	28.9	19.8	11.7	9.5	1.8	6.2	5.5

5-4 ごみの減量や資源の回収に関して力を入れるべきこと

問13 ごみの減量や資源の回収に関して、今後どのような対策が必要だと思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ ごみの減量や資源の回収に関して力を入れるべきことについては、「資源回収ステーションの増設」が43.7%と最も多く、次いで「家庭における分別・リサイクルの徹底」(42.0%)、「資源として回収する品目の拡大」(40.5%)の順となっている。



- ◆ 地区別については、各地区で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。9つの地区で「家庭における分別・リサイクルの徹底」が最も高くなっている。一方、白土・西白土・部田山では「資源回収ステーションの増設」が最も高くなっている。

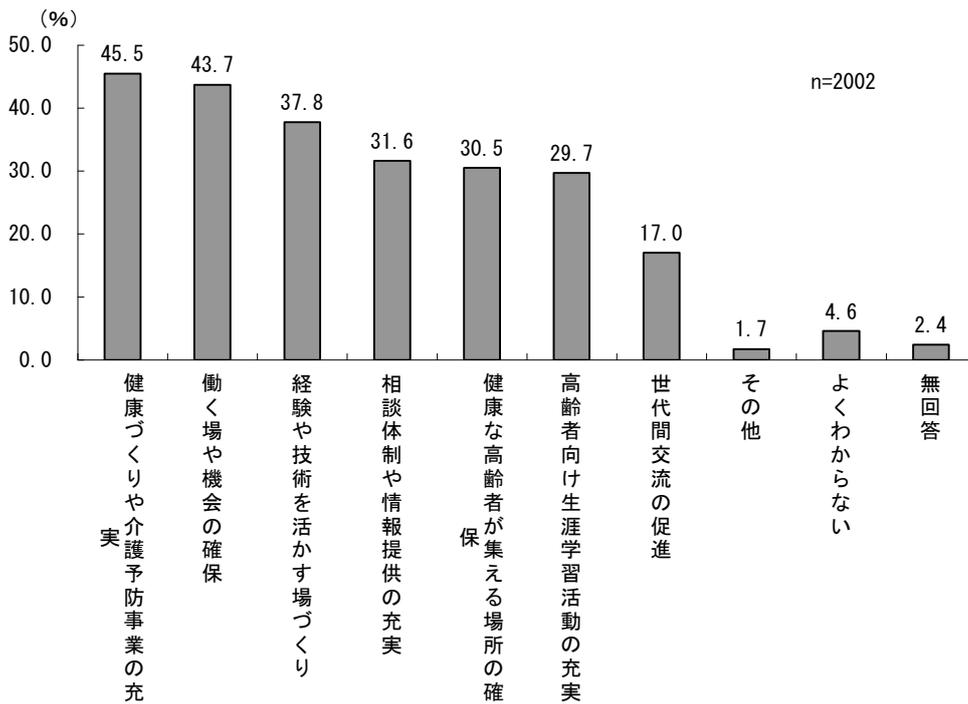
	全体 (n)	資源回収ステーションの増設 (%)	家庭における分別・リサイクルの徹底 (%)	資源として回収する品目の拡大 (%)	地域で行われる資源回収活動の奨励 (%)	ごみ減量対策の補助制度の拡充 (%)	ごみや資源などの情報提供の充実 (%)	商店などと連携したレジ袋の削減 (%)	ごみ袋の販売価格の値上げ (%)	その他 (%)	よくわからない (%)	無回答 (%)
全体	2002	43.7	42.0	40.5	29.6	23.3	21.3	17.4	3.5	4.7	3.8	2.6
諸輪	140	40.0	43.6	37.1	33.6	21.4	20.0	16.4	5.7	3.6	5.0	4.3
和合	138	38.4	46.4	42.8	34.8	22.5	28.3	15.9	2.9	5.1	1.4	0.7
傍示本	138	41.3	43.5	42.0	28.3	29.7	20.3	20.3	4.3	4.3	3.6	3.6
祐福寺	90	38.9	46.7	33.3	28.9	28.9	18.9	16.7	4.4	4.4	4.4	4.4
部田	68	41.2	32.4	45.6	41.2	27.9	14.7	16.2	4.4	5.9	2.9	1.5
白土	198	53.5	38.9	38.4	25.8	21.2	19.7	17.2	2.0	2.5	4.0	3.5
西白土	42	59.5	33.3	33.3	28.6	19.0	21.4	9.5	-	2.4	4.8	7.1
和合ヶ丘	152	35.5	40.8	44.1	37.5	22.4	24.3	15.1	3.9	3.3	5.9	2.0
諸輪住宅	24	33.3	33.3	41.7	33.3	20.8	29.2	8.3	-	-	-	8.3
白鳥	197	35.5	35.5	46.2	29.9	23.9	21.8	18.8	3.6	7.1	4.1	4.1
御岳	155	35.5	52.9	41.9	34.2	25.2	21.3	20.0	3.2	6.5	1.9	0.6
押草団地南	52	44.2	53.8	30.8	25.0	19.2	15.4	23.1	1.9	5.8	5.8	1.9
押草団地北	45	33.3	40.0	33.3	28.9	20.0	31.1	28.9	4.4	4.4	4.4	-
春木台	166	39.2	46.4	39.8	24.7	20.5	28.3	16.9	3.0	2.4	6.0	1.2
北山台	148	41.9	47.3	44.6	27.7	24.3	18.2	16.9	4.7	4.7	2.7	2.0
部田山	184	71.2	33.2	35.3	21.7	22.8	14.7	16.3	3.3	7.1	2.7	-

(3) 福祉・健康について

5-5 高齢者の生きがいに関して力を入れるべきこと

問14 高齢者が生きがいをもって暮らせるまににするために、今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 高齢者の生きがいに関して力を入れるべきことについては、「健康づくりや介護予防事業の充実」が45.5%と最も多く、次いで「働く場や機会の確保」(43.7%)、「経験や技術を活かす場づくり」(37.8%)の順となっている。



- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。10歳代～40歳代では「働く場や機会の確保」、50歳代～70歳以上では「健康づくりや介護予防事業の充実」がそれぞれ最も高くなっている。また、「世代間交流の促進」では、10歳代が34.8%と他の年代よりも高くなっている。

	全体 (人)	健康づくりや介護予防事業の充実	働く場や機会の確保	経験や技術を活かす場づくり	相談体制や情報提供の充実	健康な高齢者が集える場所の確保	高齢者向け生涯学習活動の充実	世代間交流の促進	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	45.5	43.7	37.8	31.6	30.5	29.7	17.0	1.7	4.6	2.4
10歳代	46	37.0	43.5	26.1	15.2	30.4	23.9	34.8	2.2	10.9	0.0
20歳代	284	39.4	47.2	42.3	25.0	33.1	29.2	20.1	2.1	4.2	0.4
30歳代	372	37.9	57.8	42.5	29.0	27.7	22.8	19.9	0.8	5.4	0.5
40歳代	303	39.6	50.8	44.9	33.3	20.5	23.8	15.2	1.7	7.3	1.3
50歳代	253	49.0	44.7	36.8	33.6	26.1	32.8	10.3	1.6	2.4	2.8
60歳代	411	51.1	38.7	31.1	35.0	35.5	36.0	14.6	2.7	4.4	2.9
70歳以上	273	57.1	18.7	30.4	34.8	39.9	35.9	17.6	1.8	3.3	7.7

◆ 65 歳以上の家族がいる家庭において、いない家庭の回答率よりも高い項目を、次の表に網掛けとして示した。

「健康づくりや介護予防事業の充実」、「健康な高齢者が集える場所の確保」、「高齢者向け生涯学習活動の充実」、「相談体制や情報提供の充実」において、65 歳以上の家族がいない家庭よりも、いる家庭のほうが、回答率が高くなっている。

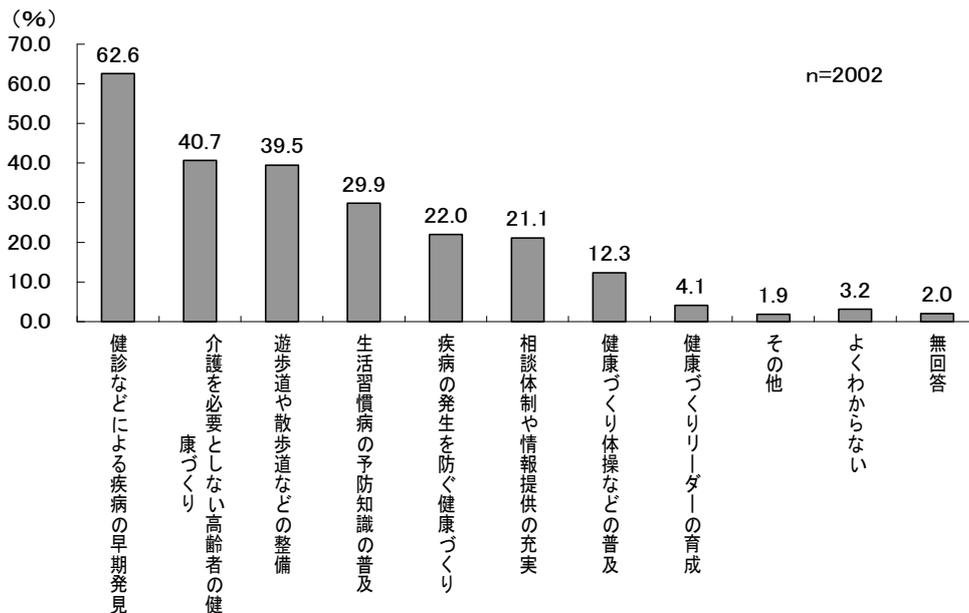
(%)

	全体 (人) (n)	健康づくりや介護予防事業の充実	働く場や機会の確保	経験や技術を活かす場づくり	相談体制や情報提供の充実	健康な高齢者が集える場所の確保	高齢者向け生涯学習活動の充実	世代間交流の促進	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	45.5	43.7	37.8	31.6	30.5	29.7	17.0	1.7	4.6	2.4
いる	670	52.2	33.3	34.5	32.8	34.6	34.2	17.2	2.1	3.1	4.2
いない	1276	41.9	49.0	39.4	30.8	28.5	27.0	17.2	1.6	5.4	1.5

5-6 健康づくりに関して力を入れるべきこと

問15 健康づくりに関して、今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 健康づくりに関して力を入れるべきことについては、「健診などによる疾病の早期発見」が62.6%と最も多く、次いで「介護を必要としない高齢者の健康づくり」(40.7%)、「遊歩道や散歩道などの整備」(39.5%)の順となっている。



- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。すべての年代で「健診などによる疾病の早期発見」が最も高くなっている。また、60歳代と70歳以上では、「介護を必要としない高齢者の健康づくり」についても高い割合を占めている。

	全体 (人・n)	早期 健診 など による 疾病 の 発見	高 齢 者 の 健 康 づ く り に 関 する 健 康 づ く り	整 備 遊 歩 道 や 散 歩 道 な ど の	の 生 活 習 慣 病 の 予 防 知 識	づ 疾 病 の 発 生 を 防 ぐ 健 康	充 相 談 体 制 や 情 報 提 供 の	普 健 康 づ く り 体 操 な ど の	育 健 康 づ く り リ ー ダ ー の	そ の 他	よ く わ か ら な い	無 回 答
全 体	2002	62.6	40.7	39.5	29.9	22.0	21.1	12.3	4.1	1.9	3.2	2.0
10歳代	46	54.3	21.7	26.1	39.1	23.9	15.2	13.0	6.5	2.2	4.3	2.2
20歳代	284	64.4	31.7	44.7	32.0	23.6	18.3	9.2	1.4	2.1	5.3	0.4
30歳代	372	71.2	35.5	40.9	26.1	17.5	19.6	10.5	3.0	1.9	2.7	0.0
40歳代	303	63.0	31.7	33.3	30.7	22.1	25.4	8.9	4.0	2.3	4.0	1.3
50歳代	253	57.3	40.7	41.9	29.6	19.8	21.3	13.4	4.7	0.8	2.4	4.3
60歳代	411	59.4	52.8	37.2	31.4	22.9	21.4	15.1	6.6	2.7	3.4	1.9
70歳以上	273	58.6	54.6	42.1	28.6	26.0	22.3	15.8	4.0	1.5	0.7	5.1

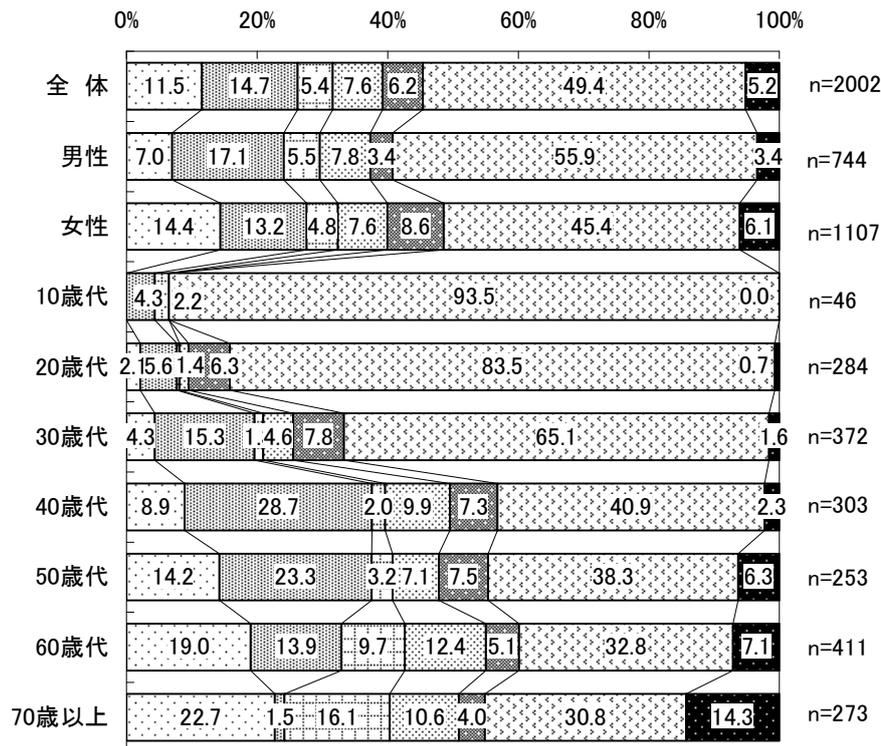
5-7 がん検診の受診について

①がん検診の受診の有無

問16 この2年以内に、がん検診を受診したことがありますか？
あてはまる番号を1つだけ選んでください。

- ◆ がん検診の受診について、“受診した”（「受診していない」、「無回答」以外の計）と回答した人の割合は、全体の約5割（45.4%）となっている。
- ◆ 男女別では、男性よりも女性のほうがやや“受診した”割合が高くなっている。
- ◆ 年代別では、年齢層が高くなるほど“受診した”人の割合が高くなる傾向となっている。“受診した”人は10歳代では1割、20歳代では2割に満たない結果となっている。一方、60歳代が最も“受診した”人の割合が高く約6割（60.1%）となっている。

町が実施する検診を受診した 職場が実施する検診を受診した
 かかりつけ医で勧められて受診した 自主的に人間ドックなどで受診した
 その他の機会を受診した 受診していない
 無回答



② 受診した検診の種類

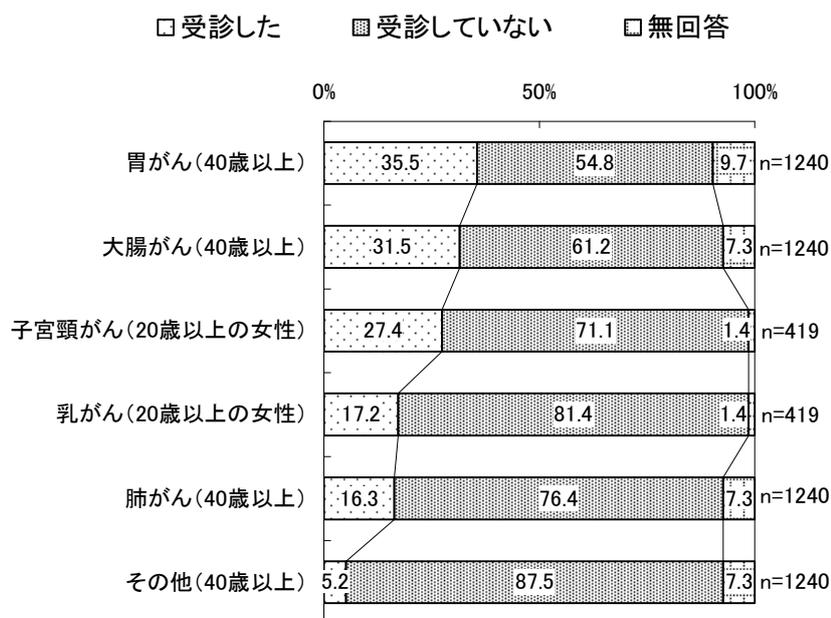
問16-1 受診した検診の種類は何ですか？あてはまる番号をすべて選んでください。

- ◆ 「何も受診していない」と回答した人を年代別にみると、「20歳以上40歳未満」が約7割（73.0%）、「40歳以上」が約4割（35.5%）となっている。
- ◆ 性・年代別では、「男性・40歳以上」では「何も受診していない」が約4割（39.9%）を占めているが、「女性・40歳以上」では約3割（31.8%）となっており、「男性・40歳以上」よりもいずれかの検診を受診した人の割合が高くなっている。

	全体 (人) (n)	胃がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	肺がん	その他	何も受診していない	無回答
全体	2002	24.8	21.9	18.9	18.0	11.3	3.7	49.4	7.0
20歳以上40歳未満	656	6.6	5.2	18.4	11.6	2.1	1.4	73.0	2.1
40歳以上	1240	35.5	31.5	19.2	21.5	16.3	5.2	35.5	9.7
男性・20歳以上40歳未満	220	5.5	5.5	-	-	2.3	1.8	88.2	1.4
男性・40歳以上	499	39.3	33.5	-	-	20.6	7.8	39.9	7.2
女性・20歳以上40歳未満	419	7.2	5.3	27.4	17.2	2.1	1.2	64.4	2.6
女性・40歳以上	645	32.6	30.7	33.8	38.0	13.0	2.8	31.8	11.0

※ 「子宮頸がん」、「乳がん」については、女性のみを集計した。

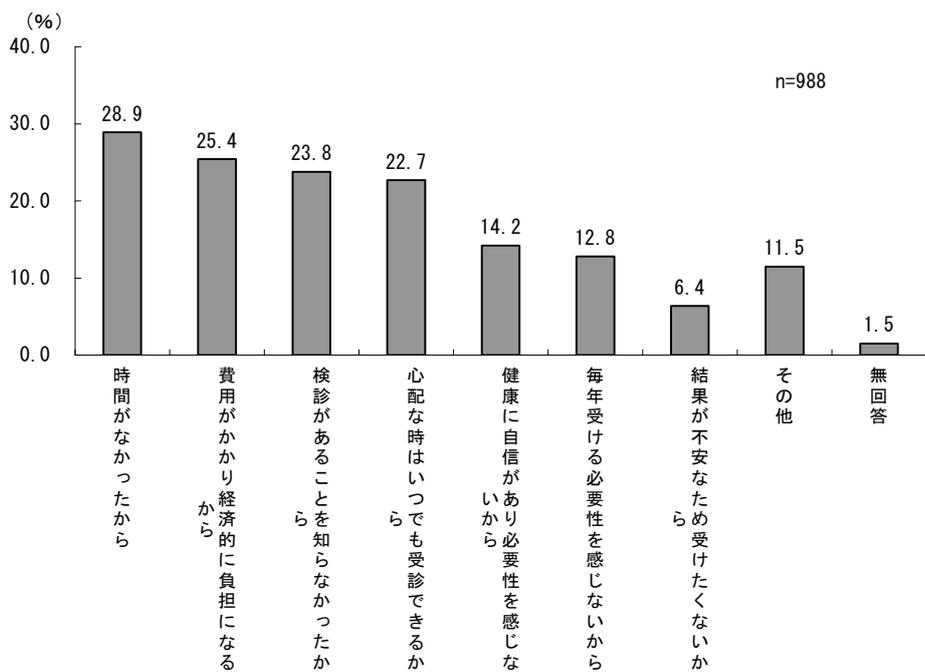
- ◆ 各項目の回答割合を特定の性・年代で示したものが次のグラフである。
「受診した」と回答した人は、「胃がん（40歳以上）」が35.5%、「大腸がん（40歳以上）」が31.5%、「子宮頸がん（20歳以上の女性）」が27.4%、「乳がん（20歳以上の女性）」が17.2%、「肺がん（40歳以上）」が16.3%となっている。



③ 受診していない理由

問 16-2 その理由は何ですか？あてはまる番号をすべて選んでください。

◆ 「受診していない」と回答した人（988人）にその理由をたずねたところ、「時間がなかったから」が28.9%と最も多く、次いで「費用がかかり経済的負担になるから」（25.4%）、「検診があることを知らなかったから」（23.8%）、「心配な時はいつでも受診できるから」（22.7%）の順となっている。



◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。10歳代・20歳代では「検診があることを知らなかったから」、30歳代・40歳代では「時間がなかったから」、50歳代～70歳以上では「心配な時はいつでも受診できるから」がそれぞれ高くなっている。

	全体 (人・n)	(%)								
		時間がなかったから	費用がかかり経済的に負担になるから	検診があることを知らなかったから	心配な時はいつでも受診できるから	健康に自信があり必要性を感じないから	毎年受ける必要性を感じないから	結果が不安なため受けたくないから	その他	無回答
全体	988	28.9	25.4	23.8	22.7	14.2	12.8	6.4	11.5	1.5
10歳代	43	9.3	4.7	46.5	2.3	20.9	11.6	2.3	25.6	2.3
20歳代	237	29.1	32.9	38.0	12.7	18.6	14.3	3.4	12.2	0.4
30歳代	242	42.1	32.6	26.9	14.0	10.7	7.4	3.7	11.2	0.0
40歳代	124	41.9	25.0	21.0	21.8	9.7	13.7	8.1	4.0	0.0
50歳代	97	32.0	20.6	10.3	34.0	12.4	13.4	13.4	11.3	2.1
60歳代	135	13.3	20.7	7.4	40.7	11.1	16.3	8.1	11.9	6.7
70歳以上	84	8.3	10.7	7.1	45.2	21.4	17.9	9.5	11.9	2.4

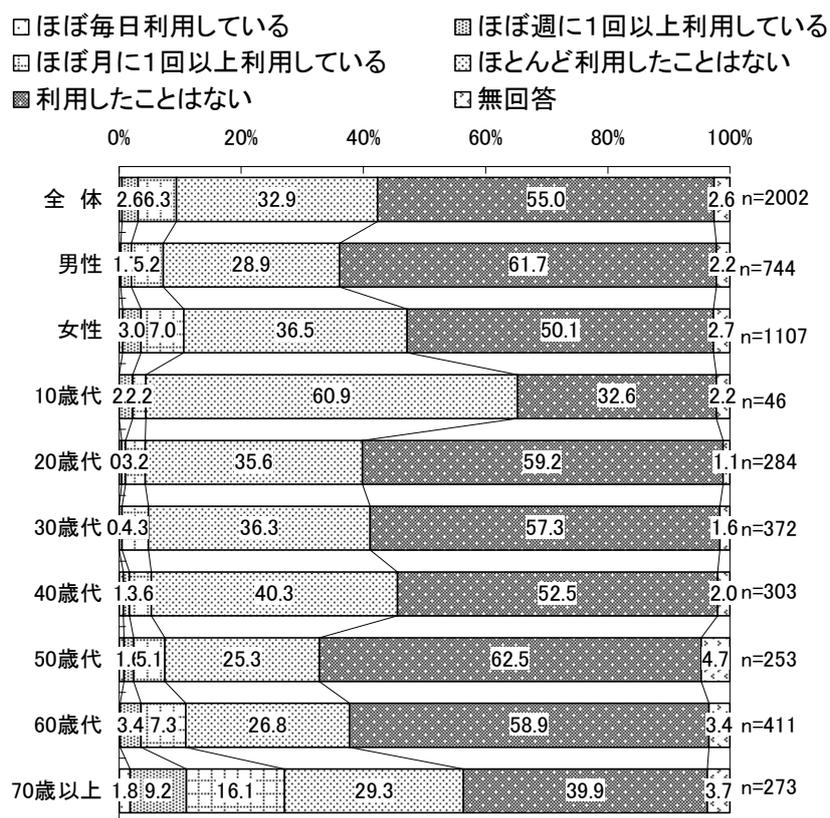
(4) 町巡回バスについて

5-8 町巡回バス「じゅんかい君」の利用について

① 利用状況

問17 町巡回バス「じゅんかい君」を利用したことがありますか？
あてはまる番号を1つだけ選んでください。

- ◆ 町巡回バス「じゅんかい君」の利用について、“利用しない”（「ほとんど利用したことはない」 + 「利用したことはない」）と回答した人は、全体の約9割（87.9%）を占めている。
- ◆ 男女別では、男性よりも女性のほうが“利用している”（「ほぼ毎日利用している」 + 「ほぼ週に1回利用している」 + 「ほぼ月に1回以上利用している」）人の割合がやや高くなっている。
- ◆ 年代別では、年齢層が高くなるほど、“利用している”人の割合が高くなる傾向にあり、70歳以上では約3割（27.1%）を占めている。



◆ 地区別では、“利用している”人の割合が最も高い地区が和合ヶ丘で17.8%、次いで、押草団地北(15.5%)、御岳(14.9%)、諸輪(13.6%)の順となっている。

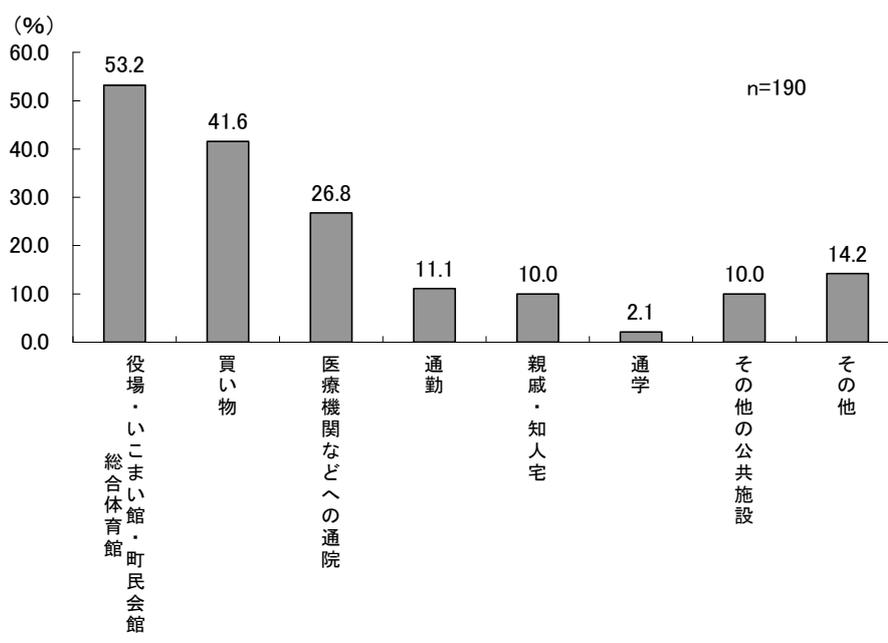
一方、“利用しない”人の割合が最も高い地区が部田山で95.7%、次いで、祐福寺(94.5%)、西白土(92.8%)、和合(92.7%)の順となっている。

	全体 (人 (n))	“ 利用する ”	“ 利用しない ”	(%) 無 回 答
全 体	2002	9.4	87.9	2.6
諸輪	140	13.6	83.6	2.9
和合	138	3.6	92.7	3.6
傍示本	138	7.2	88.4	4.3
祐福寺	90	2.2	94.5	3.3
部田	68	7.4	92.6	-
白土	198	7.6	87.3	5.1
西白土	42	4.8	92.8	2.4
和合ヶ丘	152	17.8	79.6	2.6
諸輪住宅	24	8.3	87.5	4.2
白鳥	197	11.6	86.8	1.5
御岳	155	14.9	83.9	1.3
押草団地南	52	7.6	88.4	3.8
押草団地北	45	15.5	84.4	-
春木台	166	10.2	86.7	3.0
北山台	148	13.5	84.5	3.0
部田山	184	3.2	95.7	2.0

② 利用目的

問17-1 どのような目的で利用しましたか？
 あてはまる番号をすべて選んでください。

- ◆ 町巡回バスを「利用している」と回答した人（190人）にその利用目的をたずねたところ、「役場・いこまい館・町民会館・総合体育館」が53.2%と最も多く、次いで「買い物」（41.6%）、「医療機関などへの通院」（26.8%）の順となっている。



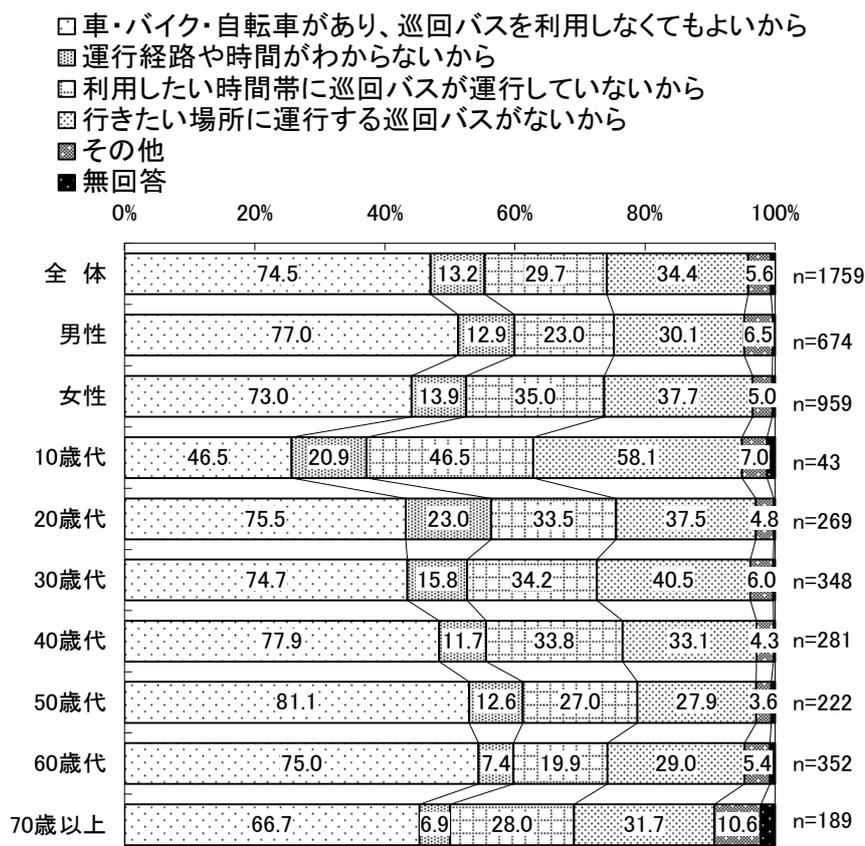
- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。すべての年代で「役場・いこまい館・町民会館・総合体育館」が最も高くなっている。
 ※「60歳代」、「70歳以上」以外はサンプル数が少ないため、誤差の大きさに留意する必要がある。

	全体 (人) (n)	役場・いこまい館・町民会館・総合体育館	買い物	医療機関などへの通院	通勤	親戚・知人宅	通学	その他の公共施設	その他
全体	190	53.2	41.6	26.8	11.1	10.0	2.1	10.0	14.2
10歳代	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
20歳代	12	33.3	33.3	8.3	33.3	16.7	8.3	8.3	25.0
30歳代	18	66.7	27.8	27.8	22.2	11.1	0.0	0.0	16.7
40歳代	16	50.0	18.8	6.3	18.8	0.0	6.3	18.8	12.5
50歳代	19	42.1	42.1	10.5	26.3	5.3	0.0	5.3	21.1
60歳代	45	62.2	37.8	33.3	8.9	6.7	0.0	8.9	8.9
70歳以上	74	54.1	54.1	35.1	1.4	13.5	1.4	12.2	13.5

③ 利用しない理由

問17-2 その理由は何ですか？
 あてはまる番号をすべて選んでください。

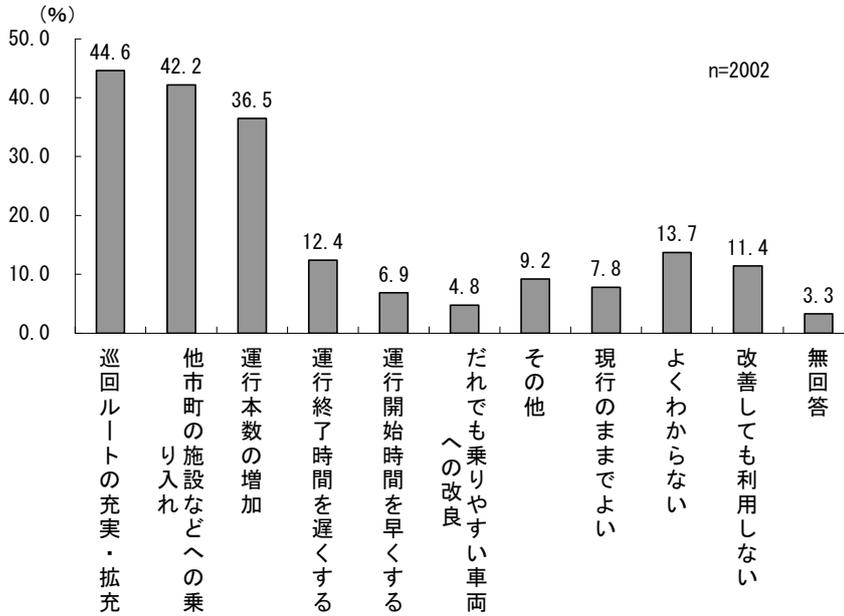
- ◆ 町巡回バスを「利用していない」と回答した人（1759人）にその理由をたずねたところ、「車・バイク・自転車があり、巡回バスを利用しなくてもよいから」が74.5%と最も多く、次いで「行きたい場所に運行する巡回バスがないから」（34.4%）、「利用したい時間帯に巡回バスが運行していないから」（29.7%）の順となっている。
- ◆ 男女別では、女性よりも男性のほうが「車・バイク・自転車があり、巡回バスを利用しなくてもよいから」と回答した人の割合がやや高くなっている。一方、女性は「行きたい場所に運行する巡回バスがないから」、「利用したい時間帯に巡回バスが運行していないから」と回答した人の割合が男性よりも高くなっている。
- ◆ 年代別では、10歳代以外の年代で「車・バイク・自転車があり、巡回バスを利用しなくてもよいから」と回答した人の割合が高く6割以上となっている。
 一方、10歳代では「行きたい場所に運行する巡回バスがないから」と回答した人の割合がどの年代よりも高くなっている。



5-9 町巡回バスの改善点

問18 町巡回バスをどのように改善すれば利用しやすくなると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 町巡回バスの改善点については、「巡回ルートの実・拡充」が44.6%と最も多く、次いで「他市町村の施設などへの乗り入れ」(42.2%)、「運行本数の増加」(36.5%)の順となっている。



- ◆ 地区別については、各地区で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。9つの地区で「巡回ルートの実・拡充」が最も高く、次いで「他市町村の施設などへの乗り入れ」(8地区)、「運行本数の増加」(4地区)となっている。

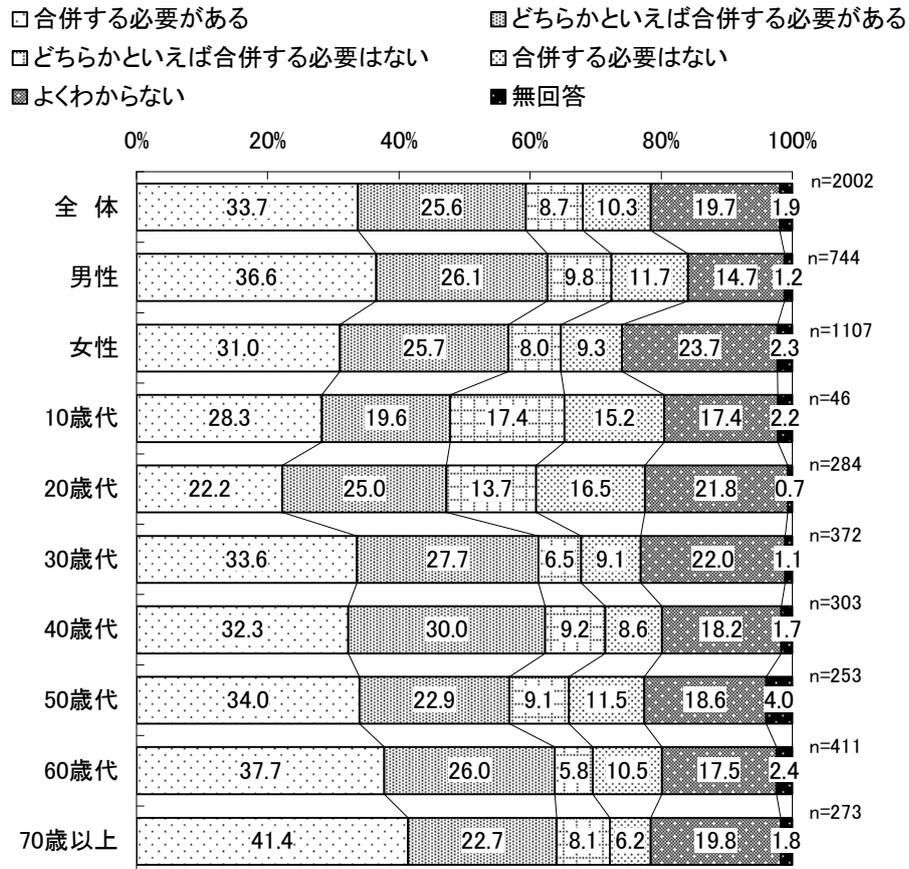
	全体 (人・n)	巡回ルートの実・拡充	他市町村の施設などへの乗り入れ	運行本数の増加	運行終了時間を遅くする	運行開始時間を早くする	だれでも乗りやすい車両への改良	その他	現行のままよい	よくわからない	改善しても利用しない	無回答
全体	2002	44.6	42.2	36.5	12.4	6.9	4.8	9.2	7.8	13.7	11.4	3.3
諸輪	140	44.3	44.3	40.0	20.0	13.6	7.1	3.6	9.3	14.3	11.4	2.1
和合	138	50.0	42.0	35.5	9.4	3.6	6.5	8.0	7.2	13.0	18.1	2.9
傍示本	138	37.0	44.2	17.4	8.7	3.6	5.8	9.4	8.7	11.6	18.1	7.2
祐福寺	90	33.3	34.4	27.8	11.1	6.7	3.3	10.0	11.1	15.6	22.2	5.6
部田	68	44.1	44.1	25.0	13.2	8.8	8.8	11.8	11.8	11.8	8.8	1.5
白土	198	43.4	43.4	32.8	5.6	5.1	3.0	10.6	8.1	17.7	8.6	5.1
西白土	42	45.2	52.4	16.7	4.8	4.8	-	16.7	7.1	14.3	16.7	-
和合ヶ丘	152	41.4	40.8	48.7	9.2	7.9	4.6	6.6	10.5	12.5	7.9	3.3
諸輪住宅	24	54.2	54.2	41.7	-	8.3	-	16.7	12.5	8.3	-	4.2
白鳥	197	38.6	38.6	46.2	13.7	6.6	5.1	10.7	8.1	15.7	9.1	1.5
御岳	155	48.4	34.2	48.4	16.1	8.4	3.2	12.9	4.5	17.4	4.5	1.9
押草団地南	52	44.2	34.6	40.4	17.3	7.7	5.8	7.7	3.8	13.5	13.5	7.7
押草団地北	45	40.0	35.6	46.7	17.8	15.6	2.2	6.7	8.9	13.3	6.7	2.2
春木台	166	46.4	48.8	33.7	12.7	4.8	6.0	8.4	6.6	13.3	9.6	1.8
北山台	148	50.0	43.9	37.2	16.2	6.8	0.7	6.8	8.1	12.8	6.8	2.7
部田山	184	51.1	45.7	35.9	13.6	6.0	6.5	10.9	4.3	9.8	16.8	2.2

(5) 市町村合併について

5-10 合併に対する考え

問19 平成の大合併が推進され、全国で市町村合併が行われています。愛知県においても88市町村が61市町村に再編されています。さて、東郷町が合併することに関して、あなたはどのように考えますか？
 今のお気持ちに最も近い番号を1つだけ選んでください。

- ◆ 合併に対する考えについて、“合併したほうがよい”（「合併する必要がある」+「どちらかといえば合併する必要がある」）と考えている人は、全体の約6割（59.3%）を占めている。一方、“合併しないほうがよい”（「合併する必要はない」+「どちらかといえば合併する必要はない」）と考えている人は、全体の約2割（19.0%）となっている。
- ◆ 男女別では、女性よりも男性のほうが“合併したほうがよい”と考えている人の割合が高くなっている。
- ◆ 年代別では、30歳代～70歳以上で“合併したほうがよい”と考えている人は、いずれの年代でも約6割を占めている。一方、10歳代と20歳代で“合併したほうがよい”と考えている人は5割に満たない結果となっている。

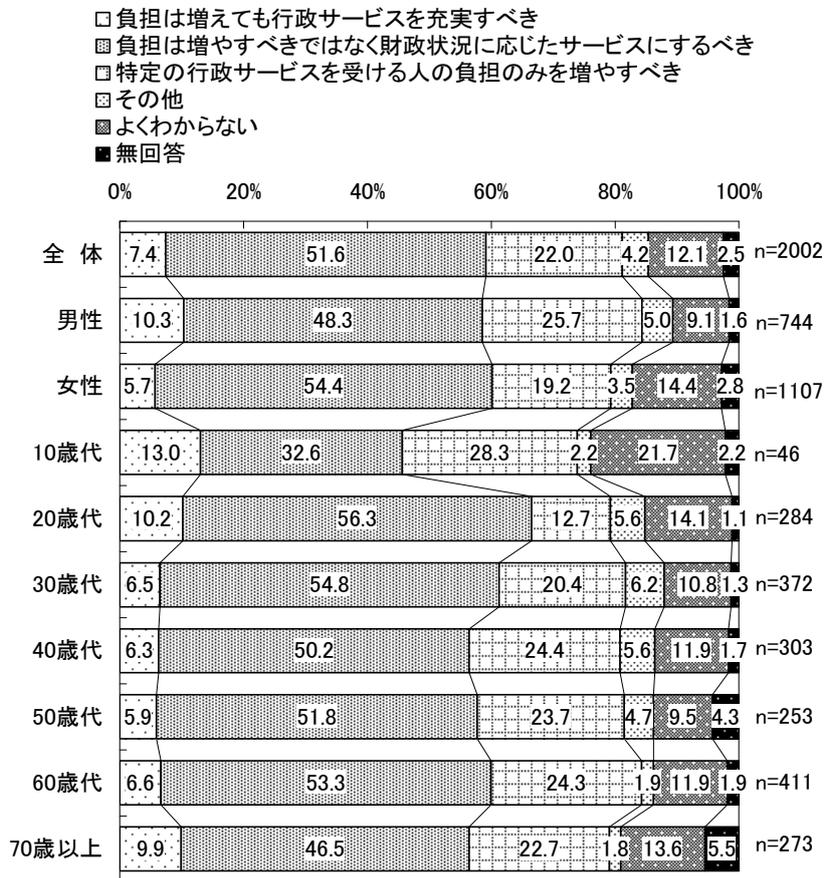


(6) 行政サービスのあり方について

5-11 行政サービスと住民負担のバランスについて

問20 行政サービスと税などの住民負担のバランスに関して、どのように考えますか？
今のお気持ちに最も近い番号を1つだけ選んでください。

- ◆ 行政サービスと住民負担のバランスについて、「負担は増やすべきではなく、財政状況に応じたサービスにするべき」と回答した人が最も多く、全体の約半数（51.6%）を占めている。
- ◆ 男女別では、男性よりも女性のほうが「負担は増やすべきではなく財政状況に応じたサービスにするべき」と回答する人の割合が高くなっている。一方、男性は「負担が増えても行政サービスを充実すべき」、「特定の行政サービスを受ける人の負担のみを増やすべき」と回答する人の割合が女性よりも高くなっている。



- ◆ 職業別については、各職業で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。
 すべての職業で「負担は増やすべきではなく財政状況に応じたサービスにするべき」が最も高くなっている。また、「特定の行政サービスを受ける人の負担のみを増やすべき」では、「農業」と「自営業」の回答率が他の職業よりも高くなっている。
 ※「その他」は分析対象から除外した

(%)

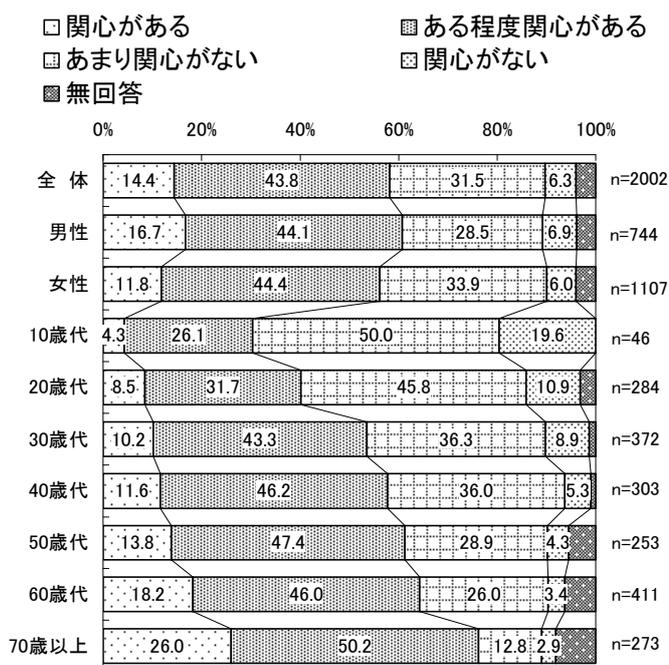
	全体 (人)(n)	負担は増やすべき は増えても行政サ ービスを充	況負担は増やす べきではなく財 政状	負特定の行政サ ービスを受ける 人の	その他	よくわからない	無回答
全 体	2002	7.4	51.6	22.0	4.2	12.1	2.5
農業	18	-	61.1	33.3	5.6	-	-
自営業	122	12.3	48.4	29.5	1.6	6.6	1.6
会社員、公務員、団体職員	662	8.6	50.8	23.0	6.5	10.1	1.1
アルバイト、パートタイマー	291	4.5	57.0	18.6	3.4	13.1	3.4
学生	83	10.8	45.8	18.1	6.0	18.1	1.2
家事専従	329	6.4	50.8	20.4	4.0	15.8	2.7
無職	401	6.7	50.9	21.9	1.5	14.5	4.5
その他	50	10.0	66.0	12.0	4.0	6.0	2.0

(7) 町政への関心について

5-12 町政への関心

問21 あなたは東郷町の仕事（町政）にどの程度関心がありますか？
 今のお気持ちに最も近い番号を1つだけ選んでください。

- ◆ 町政への関心について、“関心がある”（「関心がある」+「ある程度関心がある」）と回答した人は、全体の約6割（58.2%）を占めている。
- ◆ 男女別では、女性よりも男性のほうが“関心がある”人の割合がやや高くなっている。
- ◆ 年齢別では、年齢層が高くなるほど、“関心がある”人の割合が高くなる傾向にあり、70歳代以上で最も高く76.2%となっている。
- ◆ 居住年数別では、居住年数が長いほど、“関心がある”人の割合が高くなる傾向にあり、「40年以上、50年未満」で最も高く68.9%となっている。

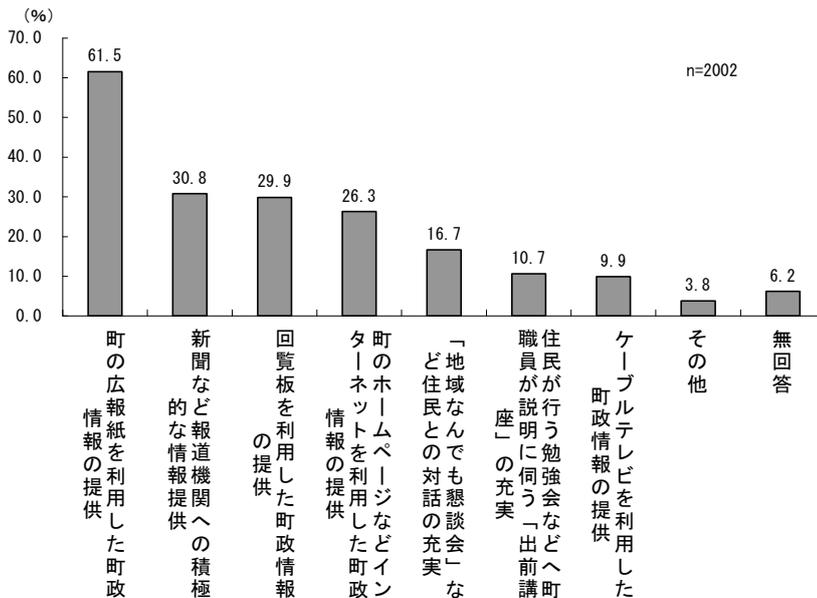


	全体 (人 n)	“関心がある”	“関心がない”	無回答
全体	2002	58.2	37.8	4.0
3年未満	212	43.9	52.9	3.3
3年以上、10年未満	388	54.6	42.8	2.6
10年以上、20年未満	397	52.7	44.3	3.0
20年以上、30年未満	419	63.5	31.3	5.3
30年以上、40年未満	305	64.6	31.1	4.3
40年以上、50年未満	138	68.9	28.2	2.9
50年以上	102	67.6	20.5	11.8

5-13 町政への関心を高めるために力を入れるべきこと

問22 町政への関心を高めるために、今後どのようなことに力を入れる必要がありますか？
 今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 町政への関心を高めるために力を入れるべきことについては、「町の広報紙を利用した町政情報の提供」が61.5%と最も多く、次いで「新聞など報道機関への積極的な情報提供」(30.8%)、「回覧板を利用した町政情報の提供」(29.9%)の順となっている。



- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。すべての年代で「町の広報紙を利用した町政情報の提供」が最も高くなっている。また、「町のホームページなどインターネットを利用した町政情報の提供」では、年齢層が低くなるほど回答率が高くなる傾向にある。

	全体 (人)	町の広報紙を利用した町政情報の提供	新聞など報道機関への積極的な情報提供	回覧板を利用した町政情報の提供	町のホームページなどインターネットを利用した町政情報の提供	「地域なんでも懇談会」など住民との対話の充実	「出前講座」の充実	ケーブルテレビを利用した町政情報の提供	その他	無回答
全体	2002	61.5	30.8	29.9	26.3	16.7	10.7	9.9	3.8	6.2
10歳代	46	45.7	34.8	32.6	37.0	2.2	2.2	10.9	2.2	4.3
20歳代	284	56.7	33.5	28.5	34.5	9.9	7.0	10.6	4.6	3.2
30歳代	372	63.4	31.5	25.5	32.8	10.5	7.0	8.3	4.0	3.2
40歳代	303	60.1	30.0	25.7	30.7	11.6	7.6	13.5	5.3	4.0
50歳代	253	59.3	32.4	27.3	30.4	13.8	11.1	10.3	3.2	9.5
60歳代	411	65.2	26.3	36.5	17.5	27.7	12.7	8.8	2.4	9.2
70歳以上	273	65.2	32.2	34.4	12.5	27.1	20.5	8.8	4.0	8.8

(8) 住民参画・協働について

5-14 住民参画や協働についての考え

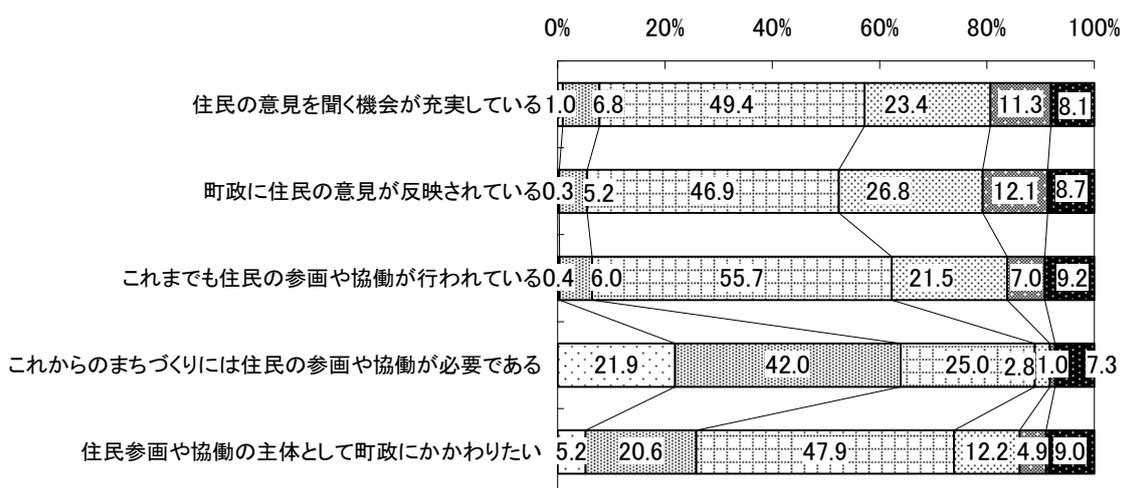
問23 町政への住民意見の反映や住民参画、住民と行政との協働について、どのようにお考えですか？

今のお気持ちに最も近い番号を1つずつ選んでください。

◆ 住民参画や協働について5項目をたずねたところ、「住民の意見を聞く機会が充実している」、「町政に住民の意見が反映されている」、「これまでも住民の参画や協働が行われている」の3項目について“そう思う”（「そう思う」+「まあそう思う」）と回答した人は、1割に満たない結果となっている。

また、「これからのまちづくりには住民の参画や協働が必要である」について“そう思う”と回答した人は約6割（63.9%）を占めているが、「住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい」では約3割（25.8%）にとどまっている。

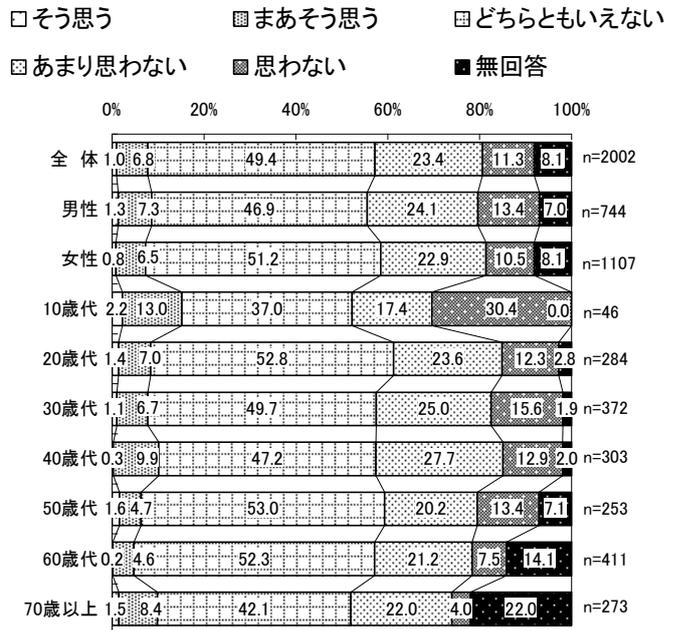
□そう思う ▣まあそう思う □どちらともいえない ▣あまり思わない ■思わない ■無回答



【個別項目分析】

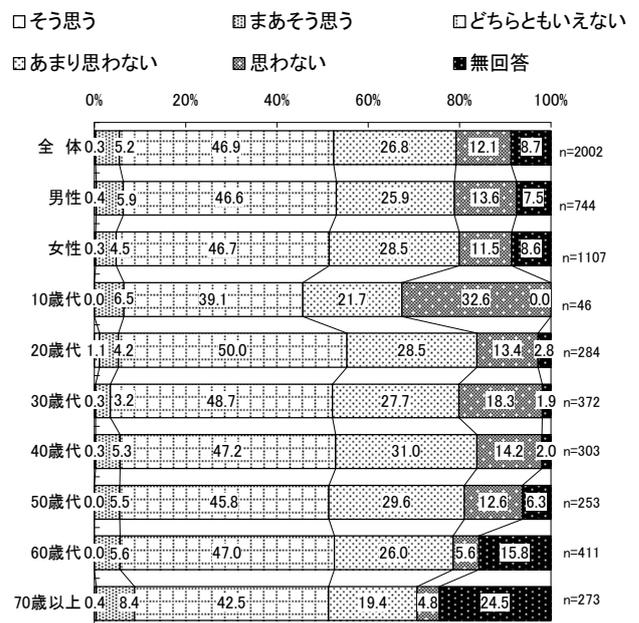
1. 住民の意見を聞く機会が充実している

- ◆ 住民の意見を聞く機会が充実しているかについて、男女別では女性よりも男性のほうが、“思わない”（「あまり思わない」＋「思わない」）人がやや多くなっている。
- ◆ 年代別では、低い年代ほど“思わない”人が多くなる傾向となっており、「10 歳代」で最も多く、約5割（47.4%）となっている。
一方、“そう思う”人はいずれの年代でも1割程度となっているが、「10 歳代」が他の年代よりも高い割合となっている。



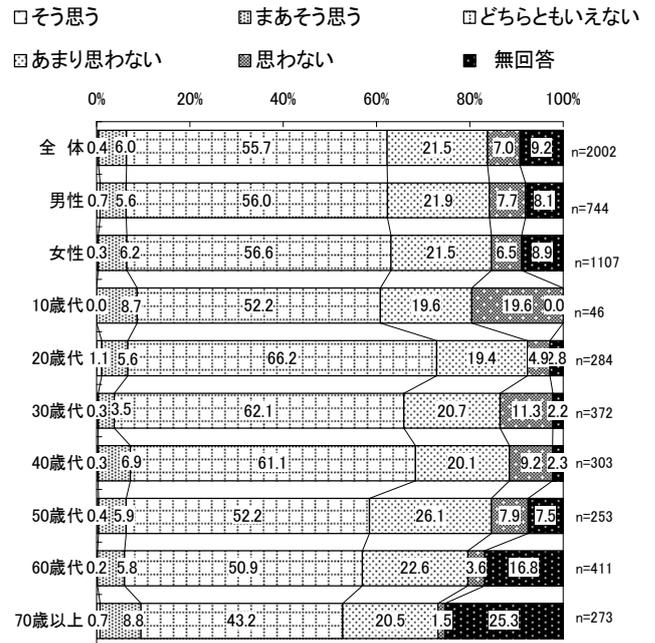
2. 町政に住民の意見を聞く機会が反映されている。

- ◆ 町政に住民の意見を聞く機会が反映されているかについて、男女別では大きな差は見られない。
- ◆ 年代別では、年代が低いほど“思わない”人が多くなる傾向となっている。



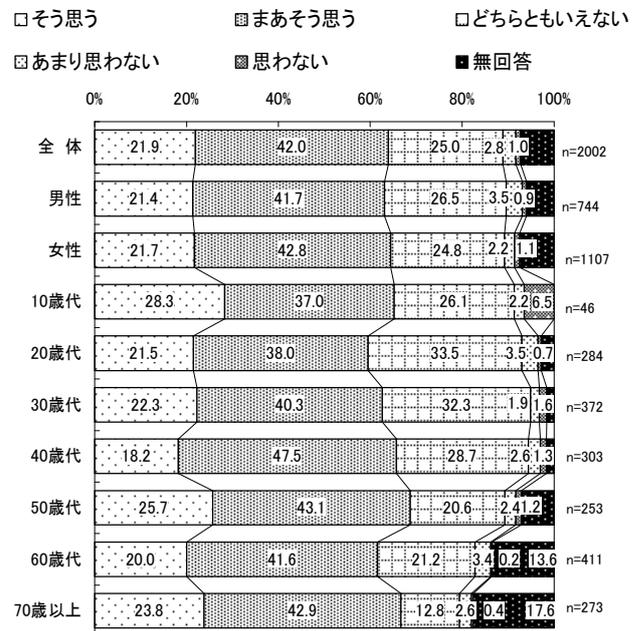
3. これまでも住民の参画や協働が行われている

- ◆ これまでも住民の参画や協働が行われているかについて、男女別では大きな差は見られない。
- ◆ 年代別では、年代が低いほど“思わない”人が多くなる傾向となっている。
一方、“そう思う”人はどの年代でも1割に満たない結果となっている。



4. これからのまちづくりには住民の参画や協働が必要である

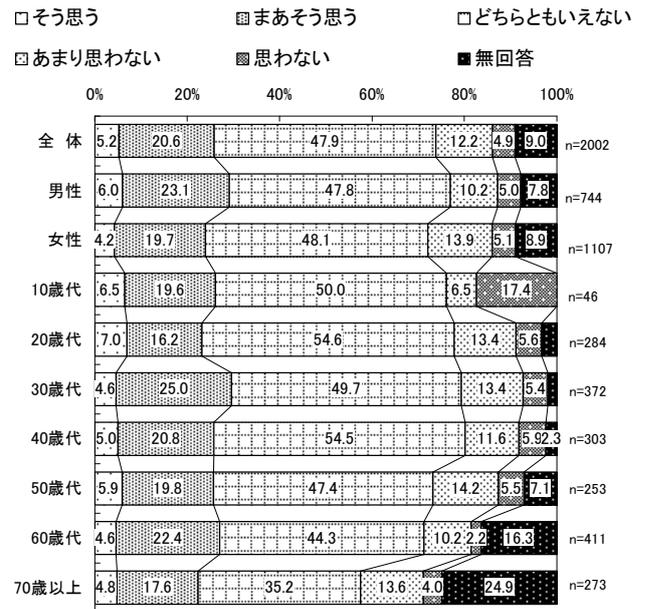
- ◆ これからのまちづくりには住民の参画や協働が必要であることについての意見で、男女別では大きな差は見られない。
- ◆ 年代別では、大きな差は見られず、どの年代においても“そう思う”人が約6割か、それ以上の割合となっている。



5. 住民参画や協働の主体として町政にかかわりたい

◆ 住民参画や協働の主体として町政にかかわりたいかについて、男女別では、女性よりも男性のほうが“そう思う”人が多い傾向となっている。

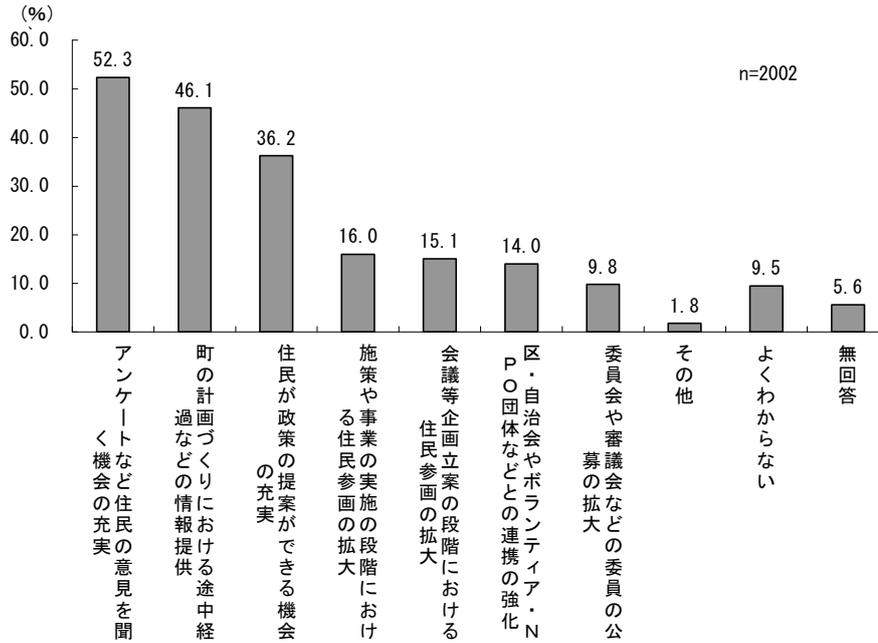
◆ 年代別では、最も“そう思う”人が多かった年代が「30歳代」で、約3割（29.6%）となっている。



5-15 住民の意見を反映するために力を入れるべきこと

問24 住民の意見を町政に十分反映させていくために、今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか？
今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 住民の意見を反映するために力を入れるべきことについては、「アンケートなど住民の意見を聞く機会の充実」が52.3%と最も多く、次いで「町の計画づくりにおける途中経過などの情報提供」(46.1%)、「住民が政策の提案ができる機会の充実」(36.2%)の順となっている。



- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。10歳代～40歳代では「アンケートなど住民の意見を聞く機会の充実」、50歳代～70歳以上では「町の計画づくりにおける途中経過などの情報提供」がそれぞれ最も高くなっている。

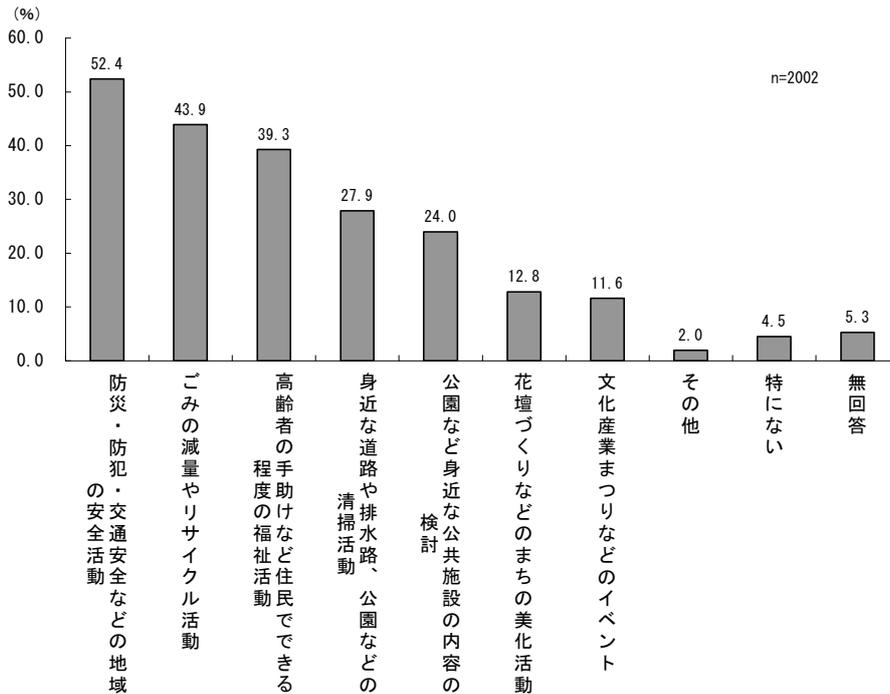
		(%)									
	全体 (n)	アンケートなど住民の意見を聞く機会の充実	町の計画づくりにおける途中経過などの情報提供	住民が政策の提案ができる機会の充実	施策や事業の実施の段階における住民参加の拡大	会議等企画立案の段階における住民参加の拡大	区・自治会やボランティア・NPO団体などの連携の強化	委員会や審議会などの委員の公募の拡大	その他	よくわからない	無回答
全体	2002	52.3	46.1	36.2	16.0	15.1	14.0	9.8	1.8	9.5	5.6
10歳代	46	50.0	47.8	30.4	19.6	8.7	13.0	8.7	0.0	10.9	0.0
20歳代	284	60.2	43.0	39.4	12.7	14.8	10.6	11.6	2.1	7.0	3.5
30歳代	372	57.5	39.8	38.4	13.4	12.6	11.8	8.6	2.2	9.7	2.7
40歳代	303	54.1	36.6	35.0	14.5	14.5	12.9	13.9	2.0	11.9	2.0
50歳代	253	46.6	51.4	32.8	16.6	17.4	13.0	14.6	1.6	9.1	7.5
60歳代	411	47.4	53.3	34.3	19.0	16.5	19.5	5.6	1.2	9.5	8.0
70歳以上	273	48.7	53.8	38.1	19.0	15.4	15.4	7.7	1.8	9.9	11.0

5-16 今後住民が積極的にかかわって進めるべきこと

問25 今後、住民の皆さんが積極的にかかわって進めることが重要だと思う活動は何ですか？

今のお気持ちに最も近い番号を3つ以内で選んでください。

- ◆ 今後、住民が積極的にかかわって進めることが重要だと思うことについては、「防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動」が52.4%と最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクル活動」(43.9%)、「高齢者の手助けなど住民のできる程度の福祉活動」(39.3%)の順となっている。



- ◆ 年代別については、各年代で最も回答率が高い項目を、次の表に網掛けとして示した。全ての年代で「防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動」が最も高くなっている。また、「高齢者の手助けなど住民のできる程度の福祉活動」と「身近な道路や排水路、公園などの清掃活動」では60歳代・70歳以上の回答率が全体より約10ポイント高く、「文化産業まつりなどのイベント」では10歳代～30歳代の回答率が全体より高い割合となっている。

	全体 (人 (n))	防災・防犯・交通安全などの地域の安全活動	ごみの減量やリサイクル活動	高齢者の手助けなど住民のできる程度の福祉活動	身近な道路や排水路、公園などの清掃活動	公園など身近な公共施設の内容の検討	花壇づくりなどのまちの美化活動	文化産業まつりなどのイベント	その他	特にない	無回答
全体	2002	52.4	43.9	39.3	27.9	24.0	12.8	11.6	2.0	4.5	5.3
10歳代	46	45.7	45.7	39.1	30.4	10.9	10.9	17.4	0.0	4.3	4.3
20歳代	284	50.0	44.4	30.6	24.3	32.4	13.4	18.3	1.8	5.3	3.5
30歳代	372	52.4	44.6	26.3	22.6	33.9	12.6	15.1	4.6	4.3	2.4
40歳代	303	58.4	48.8	35.3	20.1	23.8	10.6	10.9	1.7	5.6	2.0
50歳代	253	49.8	43.5	43.5	22.1	23.3	12.3	7.5	1.6	4.3	7.5
60歳代	411	52.3	43.6	49.6	37.2	16.1	14.6	8.3	1.5	4.1	6.6
70歳以上	273	52.0	39.9	51.3	38.5	17.2	12.8	8.4	1.5	3.7	10.6